

# だじゃれの作り方講座

「だじゃれ」は、その場のふんいきをやわらげたり、楽しくしたりしますね。使いすぎはよくありませんが、みんなが大すき(?)な「だじゃれ」について、見つめてみましょう。

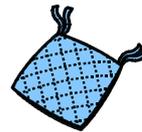
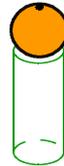
「だじゃれ」って何?

「だじゃれ(駄洒落)」とは、同じ音、または、とてもにている音をもつ言葉をかける言葉遊びです。この場合の「かける」とは、【言葉と言葉につながりをもたせる】ことです。

1 おなじ音でも意味がちがう言葉で、もうだじゃれ?



アルミ缶の上にあるみかん  
ふとんがふっとんだ



これは、おなじ音(おん)をかけたものです。しかし、生活のなかでは、アルミ缶の上のみかんがのっていたり、ふとんが、ふっとんだりすることは、おそらく見かけることはないと思います。かんたんな言葉あそびといったところでしょうか。

しかし、漢字をたくさん習ったり、生活の中でたくさんの言葉を覚えるようになってくると、少し変わってきます。

ある日の昼食の時間、職員室でこんな会話がありました。

江先生 「...フルーツですきなものは、一番が○○で、二番が白桃(はくとう一果肉が白っぽい桃のこと)で、三番が□□で…」

T 教頭 「桃だったら、自分は黄色い桃のほうが好きだなあ。もし、桃がおしゃべりができるとしたら、黄色い桃はきちんと受け答えしてくれるから。なぜだか、わかりますか？」

みなさん、答えはわかりましたか?

周りにいた先生たちは、すぐに答えてくれましたよ。

答えは、「応答(おうとう)するから」です。皮や果肉が黄色い桃は「黄桃(おうとう)」とよばれています。また、こちらからの質問に相手が受け答えすることを「応答(おうとう)する」といいます。つまり、「黄桃」と「応答」をかけたわけです。あり得ない話ではありますが、ちょっとおもしろいとは思いませんか。

## 2 日本語を英語にかえてみると、意外な発見が！

たとえば、トウモロコシがたくさん入っていた料理があったとしましょう。それを見た人が、こんなことをいいました。

「わあ、トウモロコシがこーんなに入っている！」

気がつきましたか？

トウモロコシを英語で言うと…、そう、「コーン」ですね。この場合は、日本語を英語にすることで、『たくさん』という意味あいになる「こーんなに」と、トウモロコシの「コーン」をかけているのです。

ほかにも、「とり肉は、残さずちきんと【きちんと】食べましょう。」というのもおなじみです。だんだんとレベルが上がってきましたね。

このレベルになってくると、生活の中で実際に起こり得る内容になってくるので、おもしろくなってきます。そうそう、給食でチキンのメニューが出たときに、給食当番さんが、チキンをつかみにくそうでごまかっていることがありました。なぜかというところ「チキンは、とりにくい。」からです。

## 3 こんな、だじゃれ物語やだじゃれクイズはいかがですか？ —想像力と作文力アップに—

### (1) 春は緊張しない？

日本では、この季節（つまり春）は、新年度の始まりで、誰もがとても緊張します。みなさんもそうでしょうし、先生たちも緊張します。

さて、4月8日、始業式が始まる前の職員室です。新しくいらっしゃった先生たちは、みなさんに紹介されるまでは職員室で待ってはいけなかったのも緊張されていました。そんな中でのやりとりです。

N田先生、M本先生「なんだか、とっても緊張しちゃう。」

T教頭「そうですか？ この国では、春は緊張しないはずなんですけど。」

N田先生、M本先生「えっ？」

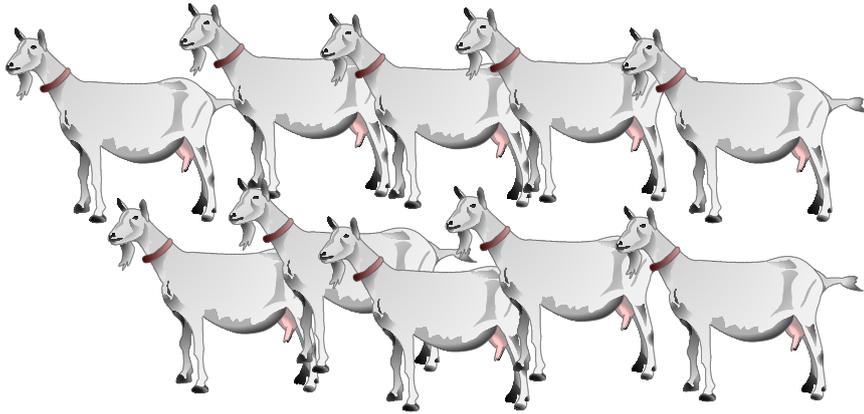
T教頭「緊張するのは、夏です。」

「よく言いますよね。日本の夏、金鳥（キンチョー）の夏って」  
ちょっとおどかしいかもしれませんが、分からない場合は、大人の方に聞いてみましょう。

(2) だじゃれクイズ -隠れただじゃれを探そう-

やぎ飼いのピーター君は、10匹のやぎを飼っています。一匹一匹それぞれに名前をつけて大切に育てています。

この文のいったいどこに、だじゃれがあるのでしょうか。(3つあります)



この講座で紹介した「だじゃれ」は、ほんの一部です。みなさんも、すてきなだじゃれを作って、言葉に親しんでください。